

て積極的な運動が展開されることになっていくし、本市においても幹線の開催される前に中央へ地域の熱意をアピールするため、沿線地域住民の決起大会であるとか早期実現への立て看板設置など積極的に取り組んでまいりたい。

### 質問

神田・伏原間臨港線の現況と完成目標年次は。

### 答弁

残る神田から国道までの区間四六〇mを五十九年度から用地買収に着手し、平成五年度を完成予定に現在鋭意努力している。平成元年度は国道取り付け部の用地買収と工事用道路の暫定盛土、そして立体交差の橋梁設計を行なっている。また平成二年度には高架橋の橋脚三基の建設と、伏原側の仮設道路を築造することになっていく。したがって今後、本事業の早期完成を図るためには、用地関係者をはじめ国及び関係機関に対し強力に要請していかなければならないと考えている。

### 質問

雲浜公民館前の信号機のある交差点では雲浜小学校の登下校時に多数の児童あるいは保育園児等がこのブッシュ式

信号機を利用して車線を横断する。それと同時に通行車両も両側に長い列をつくり、歩行者優先といえどもこれでは円滑な通行帯とは言えず、歩行者の危険度も非常に高い。また、大手橋、西津橋とも本橋下流側に歩道橋が架けられればほとんどの児童生徒は一六二号線を横断せずに登下校できるはずである。雲浜小の通学路の問題は大手橋東詰より市道西の浜線は完成しているものの西津橋等方面の通学路としては多田川左岸の完成を待つて六m道路を作るという話しが何の進展もみられない。さらには大手橋、西津橋とも鉄筋構造とはいえず建設後すてに六十年を経過しており、幅も極端に狭く、一部沈下もしている。通学路等の問題やこれら橋の架け替えについていかようにお考えか。

### 答弁

雲浜公民館前交差点の交通の円滑と安全対策については歩道橋等の設置が考えられるが、これらについては道路管理者の建設省及び県、警察等のご意見を聞きながら検討いたしたい。また城内橋については、改良する時に高架でいくか下げるかというような話しの中で、一時ご指摘のような多田川改修に伴う側道とし

て六m規格のものを作ろうという話しは現存していたことは事実である。しかしその後道路を下げて城内橋も下げるということからボックス式の通学路も消えたと聞いている。したがってその後の道路整備計画の中では歩道橋等の話しは聞いていない。そこで五十七年に第八次治水計画の見直しのあつた時点で建設省へ大手橋並びに西津橋の老朽化に伴なう架け替えを強く要望したが財政事由により計画には登載されなかつた。それでは代策として竹原橋の完成を待つて引き続き多賀竹原松ヶ崎線の架橋をお願いするというところで話しを進め、それが平成元年度には概略設計を書いていたたくまでに至り、平成二年からは一部用地買収、工事と進んでいるのが現状である。架橋にはまだ四、五年は要すと思うが、他に代案も持ち得ないのでこれを促進することによつてお応えをしてまいりたい。

### 質問

本市の南東部における人口形態は、旧市街地を除いてJR小浜線・国道二七号線を境とするならば、この南の部分に人口が集積している。ところが現在の交通体系を見ると二七号線から南側には平行し

た道路がなく、これが二七号線の渋滞を引き起こしているひとつの原因となっている。今回の開発計画にはこの点を充分考慮に入れた思い切つた路線の策定が必要でないか。また本市の西部についても小浜から加斗地区にかけ旧道はあるものの二七号線一本と言つてもよい。これらも含めた構想が必要と思われるが、さらに小浜市の都市計画の理念に立つならば第二次総合計画にその中心のひとつとして挙げられていた南北軸を絶対離してもらつては図る。小浜市は歴史的にも地理的にも関西圏にあり、たとえ近畿線と敦賀・福井方面への交流が盛んになつても、結果的には背後にある京阪神との繋がりが強化されない限り将来の発展は飛躍的に望めないのが実情であるから、開発計画の中に大きな柱として組み入れていただきたい。今の小浜市内の道路網計画はこのままでいくと市内においても二七号線に区切られた区域で南北格差ができていのではないかと心配する。

是非近畿線のアクセス道路を含め、格差が出ないよう取り組んでいただきたい。

### 答弁

本市道路網の進捗については、合併直後の二十八年大水害、続いて伊勢湾台風と、市誕生以来十年余を災害復旧に明け暮れ、開発事業がほとんど成し得なかつた期間の存在したことはご認識賜りたい。この間のことが一挙に取り返せず現在まで来ている部分も多々あるかと思う。南部、西部の件であるが、加斗地区、中名田地区を含めてひとつにした道路計画というものを持ち得ていないが、中名田については大飯町へ抜ける岡田深谷線、加斗地区については綾部まで通じる真珠浜を利用した加斗袖崎鹿島線の国道編入ということに対応している現状にあり、これらを積極的に進めたい。さらに横断的な計画でご指摘があつたが、西部、南部の横断となると山岳地帯を横に抜くということになり、財源上到底考えられないことと思う。いずれにしても、ご指摘のとおり本市の場合は北陸圏よりもむしろ近畿圏に大きな意味において親しみを感じており、もとよりこの南北軸を疎かにすることはあり得ないことと認識いたしたいし、市内の南北格差についても決してそういつたことのないよう努力する。

### 質問

鳥越山の多目的公共用地を元利償還額を含め十七億六千七百万円をかけて粗造成し、九haのうち五haを県に提供するというところであるが、用地代も含め二十億というのはあまりにも高額であり、市に財政負担を強いるのではないのか。応分と言われるが、当初予算百十四億五千万円の一割というのは分を超えていないのか。

### 答弁

二十三haの土地のうち五haが県の大学用地になるということで、今日まで随分と長時間に渡り論議が重ねられ、それが応分の負担となり、そしてさらに推し続けたところで十二億というものが出てきた訳で、県立であるので開学後の運営費や支援対策など今後過大な負担の必要はなく、設置の意義と内容を押し量り、納得できるものであるならば冷静に将来計画を立て、積極的に迎える用意をすることが市民の利益に合致するものであると考える。

## 工業団地

### 質問

今回提出されている竜前区

## 大学

の土地五十haの工業団地に係る状況をお尋ねする。

### 答弁

竜前区よりこの地域の農用地の有効利用について陳情を受け、これをどのような方向で採択すればよいか関係部課で検討を重ねたところ、企業用地として取り組ませていただくのが最も望ましいということを進めさせていただいている。現在までは地元地権者に造成の基本的な取り組み、すなわち企業団地を作らせていただきたいということ調整を申し入れ、その了解も得られたので、近く竜前区の区会、遠敷地区の区長会等に計りし、今後定義される排水、給水、交通面等相談させていただきたい。面積的には五万八千㎡余りになるかと思うが、企業立地としては三万五千㎡程度でどうかという担当課の素人考えを持っている。造成については企業立地促進対策補助事業で取り組み、その後それぞれ企業に分譲できればと考えている。問題点はやはり排水水であるかと思うが、これらのことは地元の方々、また県等とも充分協議したい。また公害のない企業ということも前提として調整を進めたい。価格面についてはやはり農用地を利用さ

せていただくということ、なかなか思うようにはいかないように、企業にはある程度負担をしていただくことになるだろう。

いずれにしても、この地域は万徳寺、若狭彦神社、神宮寺、鶴の瀬等の歴史的な文化風土の溪間地域でもあり、市にとつても大切な地域であるという問題点も内在しているが、懸案の企業立地ということも取り組みながら成し得なかつたという部分も含め画期的な事業であり、誠意を持って取り組みたい。

### 情報化対策

#### 質問

開かれた市政の実現という中で情報通信システムのネットワーク化について検討するとされているが、具体的なお考えは。また小浜市を中心にして若狭一円に会員を擁する草の根DBS若狭マーメイドがパソコンを使って若狭小浜の情報在全国に紹介しようとして活躍されているが、市としても積極的に市政広報や観光、産業等行政の情報を提供していくべきで、できれば賛助会員としてネットワークに加入し情報を発信してはどうか。また、ビデオを利用した広

報により市民への行政のPRはできないか。活字による情報も大事であるが、誰でも気軽に見ることのできるビデオで視聴覚にも訴えていくことにより、より大きな効果も上がるのではないかと。

### 答弁

ご指摘のパソコン通信若狭ネットワーク運営協議会には本市職員も何名かこの会員となり、催し、図書館等の行政情報を提供していると聞いている。またアマチュア無線の愛好家も二百名余が地域情報活動を積極的にこなつており、一方県内行政機関でも自治体間情報ネットワークシステムの構築計画が進められ、加入の呼びかけもある。これは県内市町村のコンピュータネットワークを利用して行政情報、地域情報を蓄積、情報交換し、地域活性化に役立てようとするものである。このように情報はもはや行政・民間の垣根を越えて、また地域・県域・全国を結んだ面的な情報交流が図られているのが現状である。本市には数年前よりパソコンも入り、また昨年からは大型コンピュータも導入しており、これをそれら方面に使うことについては無限の活用があると思うが、本市の機器がそれらにどう入って

いけるかは今後の研究課題である。平成二年度予算において本市に最もふさわしい情報メディアは何であるか、またその効果的な運営はどうすればよいか等調査研究をいたしたい。また自治体の広報活動もニューメディアと呼ばれる新しい情報通信手段のもつすぐれた機能に着目し効果的な活用を図る必要があることは認識しているが、ビデオによる広報については、現在の広報紙との兼ね合い、体制作り、コスト面等問題も多いと思われる今後の検討課題としたいが、たとえば先進都市の視察であるとか事業の紹介を民間で作ったものを各種説明会等に活用できればというようなお考え方をもっている。

### 温水プール

#### 質問

温水プールの実現については色々とお考えのことと思うが、すでにある敦賀、舞鶴を例えて見ると近隣の人達をも吸収して運営されている。しかもその吸収率が五十%近いとなれば、残された若狭地方で本市以外のどこかの町村が先に作れば後は小さな範囲で運営するよりない。広域的な経済や人の流入などを考え、その意味でこの小浜が若狭の

中核都市を目指しているのだから、近隣の人口をも対象に含めた施設がいかに大切かはお分りだと思ふ。市民の期待も膨らみつつある今、時代に即応し、手を打つのは秀れた行政の在り方と考えるが。

### 答弁

これが市にもたらす効果の大きさにについては仰せのとおりであり、また老若男女を問わず、そして四季を通じて利用できる、市民の健康増進のためにも是非とも必要な施設であると以前より考え、申し上げておるところである。今日まで遅れてきたのは、ひとつには設置場所の問題、いまひとつはこの温水プールは比較的那の運営に費用を要するということがあったと思うが、多くの市民よりの強い要望もいただいております、何とか早くお応えせねばと常々思案しているところである。

### 産業会館

#### 質問

当市の観光コース上に伝統産業と特産物を一力所に集中させた見本市となるような物産館を地力により建設できるように指導育成できないか。それぞれの業社が寄り合い、工を出さず等質統一された伝統産業共通の発展という観点から、協力し合つてこの小浜の観光事業と提携できるようなリーダーシップをもつ行政サイドで発揮すべきと考えるが。

### 答弁

伝統産業と観光との結びつきは特に重要であることは充分認識しており、これを基本としてそれらの行政を推進している。物産館の件についてはご指摘のとおりであり、地場産業の振興と相まつて観光

の新しい素材としても必要と、去る地場産業21活性化検討委員会においても、仮称地場産業会館の建設が必要急務との答申を得ており、今後積極的に準備を進める。

### 今富小学校

#### 質問

近年小浜市の人口は伸び悩んでいるものの核家族化等の影響にて人口、世帯の移動が進み、雲浜、今富地区はそれが顕著に表われる。特に今富地区は企業社宅等の関係、また変則的な開発地域ということもあって出入りも激しく、本来今富区の出生動向のみで児童数を判断しえない要素をもっている。今富小学校については昭和四十三年に校舎、体育館を建設し、その後五十年、五十四年度と増築をして現在に至っているが、児童数の増加に伴ないその都度対応しているため非常に無理な設計建築となっており欠陥校舎ともいえる。そこで改修増築計画についてのお考えを伺う。

また学校区域について、やはり校区が基本であると考えられ、色々な行事等にも影響があり簡単に放置すべきものでないと思うが、どう指導されておられるのか。

#### 答弁

学校保有面積で見ると、校舎は建設後の児童数の増加により文部省の基準面積を満たしていないのが現状である。また建設後二十年余を経過して老朽化の兆しも見られるようになった。今後、特定財源の確保に努め、できれば平成三年もしくは四年度の二九年でもって大規模改修と一部増築に取り組み、ご指摘の諸問題について対応いたしたい。なお、児童数については平成九年までは横ばいの状態が続くと把握している。

また、校区の件についてであるが、ご指摘の伏原区については今日まで種々協議を重ねてきたところであるが話し合いがまとまらず、現在小浜小、今富小のどちらでも行ける自由区として対応している状況にある。ひとつにするのが一番望ましいと考えるが、今日までの経緯等も考慮し、自由区としてあるものを理想的なひとつの校区として持っていけるよう模索しながら努力をしているのでご理解願いたい。

### ほたるの里

#### 質問

数年来田村川を美しくしようとす運動が実って川一面を覆っていた葦が衰え、川の流れに太陽が当たるようになった。また川蟻が非常に多くなり、数少なくなっていたほたるが爆発的に増え、初夏の河原を彩るようになった。地区民の奉仕作業で流した汗がほたるを呼び戻したと言える。何千何万のほたるが飛び交う光は大都会日本の輝きにも負けぬ美しさであり、この光が再び消えないよう、ほたるの里として指定できないか。指定地となることで美しくしようとす努力の励みにもなると思うが、また、ほたるの里というようなカンパンの設置は考えられないか。小浜市のイメージアップの一場でもなればとお尋ねする。

#### 答弁

田村川をきれいにするため地区民の努力があつて今日に至っているということは実は今お話しを伺い知ったようなことで、こうしたご奉仕に心から敬意を表する。

街作りのひとつとして、地域の特性を素材に個性化、魅力化を進め、地域の持つ潜在能力を高めると共に外へアピールすることが必要で、各地区の伝統行事や特色ある自然環境など地域の特性を生かし

た街作りの方策を考えていかなければならない。そういった中で、清らかな水と素朴な自然環境が条件となっているほたるが川辺で夜空に舞う光景は真に優雅で幻想的でさえあり、これを貴重な資源として活用し、人間性豊かな青少年の健全育成や不足がちなコミュニケーションの場として、さらにはイベント等も含めた観光施設への方策を十分に調査検討いたしたい。

### サル駆除

#### 質問

近年著しく野作物に被害を与えているのがサルで、何とかしてほしいという気持は切

なるものがある。幸い今のところ猟友会員の積極的な協力をいただいているが、被害を減少させるに至らない。また駆除後も土の中に埋めて冥福も祈ってやらねばならず、ボランティア精神に富んだ人ではないとできない。会員のご苦勞も考慮し、助成金の増額はできないか。また現在の駆除体制は小浜市を含め近隣町村個々に行なっており、サルは住民登録の必要もなく住所不定の団体行動であることなど考慮し、広域的に連携した対応も必要ではないか。

#### 答弁

会員の方々にはそれぞれ仕事をもちの傍らのことであり、ご苦勞をお掛けしている

ことに日頃より深く感謝申し上げているところである。そのご苦勞に少しでも報いらればと、実はほんの僅かではあるが謝礼を平成二年度より値上げさせていただいたが、まだまだ相足りないかと存ずるので今後また積極的に検討いたしたい。広域的な駆除対策については、小浜市の会員が隣接町村でも駆除活動できないか関係機関に要望しているところであるが、本来有害鳥獣駆除は発生した区域のみで行なうこととなっており、自然保護との関係もあって難しい状況にもあるが、仰せのとおり情報交換等連携の重要性も承知しているので引き続き関係当局に要望していく。

平成二年第二回小浜市議会臨時会が四月二十七日に招集され、会期を一日限りとして四議案の審査採決を行なった。

## 第2回臨時会 [会期 4月27日]

議案・結果			
議案	議案	議案	議案
議案 43	議案 42	議案 41	議案 40
小浜市多目的公共用地造成事業委託協定の締結について	専決処分につき承認を求めることについて	専決処分につき承認を求めることについて	専決処分につき承認を求めることについて
原案可決	"	"	承認